

### 【今日の説教から】

神様は、私たちが分からず屋で忘れっぽく、悲観主義で臆病なのを見て、どんなにやきもきしていらっしゃることでしょうか。

神様はいつも私たちに良いものを満ちし、恐れることはないように強力にエスコートしていただくのに、私たちは怖い、怖いと言って途方に暮れ、顔も上げられず、立ち尽くし、見なくてもいいことに心を奪われ、気付くべきことには気付かない、物事を最悪のほうにしか考えられず、勝手な「常識」の枠だけですべてを判断しようとして、信仰も希望も愛も失ってしまう、力なく弱い、自力本位の私たち、神様を排除して、神様のお励ましを忘れて、自力で進んで、しかしそれが力なき、悪い結果になる、そういう私たちに対して、神様はどれだけじれったいお気持ちでいらっしゃるのでしょうか。

「どうして信頼してくれないの！ どうして信じて頼ってくれないの？ どうして物事を悪い方向ばかりにして考えられないの？ どうして私の愛に答えて信頼して、幸せになれないの？ こんなにあなたのことを愛してあなたのために考えているのに」と、これは人と人との会話ではなくて、神様から私たちへのメッセージなのです。

私たちは、神様をどのような存在だと思っているのでしょうか。別に信じなければ信じればいい、気休め程度に、という風に思っているのでしょうか。いえいえ、神様に頼るといふことは、ものすごい力であることを信じたいのです。

皆様、イースターおめでとうございます。

寒い寒い3月でしたが、ついに寒さもほころんで、桜の花の咲くころになりました。

イエス様は私たちへの溢れる愛のゆえに自ら進んで贖いの十字架にかかってくださいました。弟子たちは主と共に起きて祈り続けることもできず、主が捕らえられるや散り散りに逃げまどい、一番弟子ペテロさえ、何度も何度も、朝が来るまで3度も主を否み、3日目にはもう同じことを何度も言わせないでくれとばかりに、激しく誓ってまで主を否んだのです。弟子として失格です。信仰者として失格です。主は私たちに資格があるから救いを与えられるのではなくて、救われる資格もない、失格者であるにもかかわらず、無条件に私たちを愛して、救ってくださったのです。

そして、その美しい、無条件の愛で包まれて、力強く助けられている、守られている、そういうありがたい身の上であるにもかかわらず、私たちはなおも体たらくで、そんな万全の助け主を頂きながら、またも一喜一憂し、途方に暮れ、失望に暮れることがあるのです。私たちはどれだけ心許なく、弱く、怒り、取り乱すのでしょうか。どうして固い主のお守りと勝利を信じることができないのでしょうか。

24:1 週の初めの日、夜明け前に、女たちは用意しておいた香料を携えて、墓に行った。

- 2 ところが、石が墓からころがしてあるので、
- 3 中にはいってみると、主イエスのからだが見当らなかった。
- 4 そのため途方にくれていると、見よ、輝いた衣を着たふたりの者が、彼らに現れた。

安息日に入る前に準備を完了した女性たちは、夜明けを心待ちにして、主の墓に出かけ、高価な香油を携えて、主のなきがらからせめて死臭を取り除き、高貴さを保つことができるようにと、せめてもの、できる限りの誠をささげようと出かけていきました。何という真心、何という温かな報恩感謝の心でしょうか。

しかし人生には「ところが」という出来事が起こります。

墓の石が転がしてあったのです。これは想定外の出来事で、決してあってはならないことでした。番兵もいるのにどうして。あれだけ世間も注目を集めた先生のことだから、いろいろな思いのある人がいて、妨害したり、盗んだり、とにかく良からぬことが起きたのだ、どうしよう、忌まわしい、どうしよう、何ということだ、こんな災難に会おうとは。

- 2 ところが、石が墓からころがしてあるので、
- 3 中にはいってみると、主イエスのからだが見当らなかった。
- 4 そのため途方にくれていると、見よ、輝いた衣を着たふたりの者が、彼らに現れた。

何ということだ、こんなことがあってたまるものか。石は転がされているはずがなく、こんな風に石が転がされているのを発見するのは不本意であり、そして主のお体をこそここに見つけるべきなのに、それが見つからない。どうして世の中は、見つけるべきでもないつまらないことを発見し、ここにあるべき見つけるべきことが見つけられないのか。どうしてこうも願うことと願わないことが交錯してしまうのか。そうして人生が攪乱され、乱され、悩みだらけになってしまうのか。どうして人生とは、平らに平安に、願ったとおりにならないのか、どうして何もハプニングなく障害なく、スムーズにいかないのか。途方に暮れ、五里霧中、一体全体この先どうになってしまうのか。ああ途方に暮れる、ああ途方に暮れる。

私たちの人生も、時においては受け入れがたい現実に打ちのめされることが多いのではないのでしょうか。どうしてこうなのか、どうしてこうではないのか。こうあるべきなのに、どうしてそうならないのか。理想と現実のギャップに打ちのめされることがあります。

どうして墓の石が転がされているのか。けしからん。墓の石はそこにしっかりと閉じて、私たちの愛する主をお守りしなければならないのに。番兵はどこに行った、役立たずめが。主のお体はどこに行ったのか。誰が盗んだのか。誰がそんなひどいことを。せっかく香料をもってここに来たのに。かぐわしい香りを差し上げて、やつれたところもなく、気品に満ちて、

あの気高い主にこれだけの素晴らしいものをもってお礼をしたかったのに。どうしてこんなことに。どうしてこんなことに。

私たちは現実の厚い壁に阻まれ、翻弄され、思うようにならず、願うようにならず、途方に暮れるのです。外に出ればつまずいて足をひねったり、物を無くしたり、家にいれば熱いお湯をひっくり返してやけどをしたり、食べ物を服にこぼして汚したり、本当にどうしてこんなにハプニングがあるのかと嫌になるばかりです。

先日私は妻と娘と共に留学中の息子を訪ねてニュージーランドを訪れました。

息子は小さな町の寮に滞在しておりまして、私たちは息子の住む町で滞在したいと思いましたが、息子はこの町はもうたくさんだから大きな町に連れて行ってくれと言いますので、オークランド空港から寮のある町に飛行機で飛んで寮を一度訪れてから 3-4 時間後にまた飛行機で取って返して大きな町オークランドに滞在することにしました。寮の滞在時間を稼ぐためにオークランドから息子の住む町までの乗り継ぎの時間を最大限に絞って計画しましたが、いろいろ調べるうちに乗り継ぎには相当時間がかかるらしい、私が計画した乗り継ぎ時間では間に合わないかもしれないということが分かり、私は顔面が蒼白になりました。乗り遅れば、せっかくあんなに遠くに行ったのに寮を見ることもできない。先生方に挨拶もできない。息子はそのあと一人でオークランドに来てもらえば会うには会えますが、せっかくの計画が台無しになる。ああどうしてもっと事前にこの情報がかめなかったのかと、私は自分を責めました。

オークランド空港に着き、私は妻と娘の荷物を全部持ってみんなで日本時間にすればまだ朝 5 時(現地時間は朝 9 時)の空港をひたすら走り、入国審査と検疫のゲートを通過しました。思いのほか空いていて、ガラガラで、なんだこんなものかと拍子抜けしました。ほっとして国内線に乗り、息子の待つ寮へ到着して、先生方に挨拶したり、寮の部屋の中を見たりすることができました。満足して、さあそろそろ飛行機の時間だからタクシーを呼んで空港に行こうか、オークランドで 3 泊楽しく過ごそうと、荷物をまとめ終わってまさに部屋を出ようというときに、ふと妻が息子にパスポートは持った？と聞きますと、息子は何やら財布を開いたり、引き出しを開いたり、カバンの中をのぞいたり慌てています。え、今から空港に行って飛行機に乗る時間なのに、今更パスポートがない？飛行機に乗れば、ホテルでチェックインもしなければならない。パスポートをどこで求められるかもわからないのに、パスポートがない？自分から大きい街に言って滞在したいと言いながら、パスポートがなければ一緒に活けず、ここでお別れじゃあないか。あなたに会いに遠くはるばるせっかく来たのに、どうしてこの時に備えてパスポート一つあらかじめ用意しておかないのか、代替海外に生活しておいて、パスポートは命の次に大事なものじゃないか。どうしてそんなことも分からないのか？私はもう疲れも相まってすっかり怒り心頭になっていました。

そんな時、妻が「見つかるようにお祈りしよう」と言い、息子と娘と一緒に祈りしていますが、私は怒り心頭でそれどころではなく、最後のアーメンだけ言いましたが、心では最悪

のことばかり考えて、上の空でした。こんな牧師で、皆様には本当にお気の毒です。本当に申し訳ございません。

見つからない、見つからないで時間ばかりが過ぎていきます。飛行機の時間は迫ってきます。そんな時、妻が何気なく、そこにあった小ぶりの、空っぽに見える紙袋の中を覗きました。

「あっ、ここにあるよ」「えっ」確かにそこに息子のパスポートがありました。息子は「そんなところに入れた記憶がない」などと言っていましたが、とにかく見つかりましたので、大急ぎでタクシーを呼んで、寮を後にしました。

本当に何か綱渡りの旅行です。そのあとは何のハプニングもなく、楽しくオークランドでの3泊を終え、それぞれがそれぞれの方向に旅立ちました。しかしその帰りの飛行機の中でまたハプニングが起きました。

飛行機に乗るや、娘が携帯電話を手にしなげらうとうとして、ふと目が覚めた時にどこを探しても携帯電話が見当たらないというのです。一所懸命に飛行機のブランケットの間や座席の上、座席のポケットなどを見ますが見当たりません。またもトラブル発生。どうしてうちの家族はこうも私を悩ませて、旅の世話役である私をほっとリラックスさせてはくれないのかと、また怒りがわいてきました。寝ているうちに手から落ちて、座席の下をこれだけ何百人もいるであろう飛行機の床をそってどこかへ滑って行ったのだ、世界中のどんな人が乗っているか分からないこの飛行機の中で誰かがそれを拾ったとしても知らぬふりをして取られてしまうかもしれない。もうだめだ。携帯電話も個人情報も、旅の写真も、二度と出てこないのだ、なんでまたこんな試練に会わなければならないのか、どうしてトラブルばかりなんだ、どうしてうちの家族はいつも私に迷惑ばかりかけるのか。私を悩ませるのか。私は自分を憐れみ、家族を見下し、怒りと悩みの中にいました。

私は席を立ち、客室乗務員の方に相談しました。するとその方は、娘の真後ろに座っている優しそうなお婦人に声をかけてくださり、その女性はしばらく足元をごそごそさせていましたが、これですかと、娘の携帯電話を見せて、これですかとにっこり微笑みました。私は、ああそれです、それです、ありがとうございますと、何度もお礼を言いました。

私たちはいつもいつも容易に平静さを失い、失望し、絶望します。

石が転がしてあるはずはないのに！お体が無くなっているわけではないのに！どうして、どうしてこうなっているの？私たちは容易に途方に暮れ、人生の道に立ち尽くします。

しかしこのことは私たちのための救いだったのです。

24:5 女たちは驚き恐れて、顔を地に伏せていると、このふたりの者が言った、「あなたがたは、なぜ生きた方を死人の中にたずねているのか。

24:6 そのかたは、ここにはおられない。よみがえられたのだ。まだガリラヤにおられたとき、あなたがたにお話しになったことを思い出さない。

24:7 すなわち、人の子は必ず罪人らの手に渡され、十字架につけられ、そして三日目によ

みがえる、と仰せられたではないか」。

なぜ生きた方を死人の中にたずねているのか。そのかたは、ここにはおられない。よみがえられたのだ。

私たちの神様は死んではおられません。今も生きておられます。

(☆牧師の妻☆【こころのブログ】「宗教改革と『ルターの妻』」より引用)

宗教改革って、ルターがただ文章を教会に貼り付けたということだけでなく、それをしたら命の危険があったというようなことだったんですね。

案の定、ルターは「破門にする」と警告を受けたり、帝国追放されたり、いつ、どんな危険が身に降りかかるかわからないような状況でした。

ある時ルターは、宗教改革運動で受ける激しい非難や迫害のために、すっかり意気消沈してしまい、希望を失いかけていました。

その時、妻のカタリーナが、書齋に黒い喪服を着て黒い帽子をかぶって入ってきたそうです。

ルターはびっくりして、「誰が亡くなったのか？」と聞いてみると、妻のカタリーナは「神様がお亡くなりになりました。」と答えました。

「なんだって？神様だって？バカなことを言うな！」とルターが言うと、カタリーナは「もし私たちの神様が生きておられるなら、なぜあなたはそんなに失望されるのです？私たちは生ける神様の御力に頼り、どこまでも戦っていきましょう！」と励まし、ルターははっとして再び力を得たという有名な話があります。

(引用ここまで)

そして神様は、私たちにあらかじめ、先のことを見通して、私たちが耐えることができるようにと、御言葉を残しておいてくださったではありませんか。しかしその希望の綱である御言葉を、私たちは容易に忘れて、現実と悩みの中、何も見えなくなって途方に暮れるのです。私たちは不安になって取り乱す達人です。怒ったり悲しんだりして希望を忘れる達人です。

ローマ 8:28 神は、神を愛する者たち、すなわち、ご計画に従って召された者たちと共に働いて、万事を益となるようにして下さることを、わたしたちは知っている。

1 コリント 10:13 あなたがたの会った試練で、世の常でないものはない。神は真実である。あなたがたを耐えられないような試練に会わせることはないばかりか、試練と同時に、それに耐えられるように、のがれる道も備えて下さるのである。

ルカ 22:31 シモン、シモン、見よ、サタンはあなたがたを麦のようにふるいにかけることを願って許された。

22:32 しかし、わたしはあなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈った。それで、あなたが立ち直ったときには、兄弟たちを力づけてやりなさい」。

なぜ生きた方を死人の中にたずねているのか。そのかたは、ここにはおられない。よみがえられたのだ。

私たちの神様は生きておられるでしょうか。私たちは神様の前で喪服を着てはいないでしょうか。

24:7 すなわち、人の子は必ず罪人らの手に渡され、十字架につけられ、そして三日目によみがえる、と仰せられたではないか」。

神様のストーリーは私たちを守り育み育てる、素晴らしい、希望と勝利のストーリーです。神様は決して私たちをお見捨てにはなりません。

1 ペテロ 2:6 聖書にこう書いてある、／「見よ、わたしはシオンに、／選ばれた尊い石、隅のかしら石を置く。それにより頼む者は、／決して、失望に終ることがない」。

2:7 この石は、より頼んでいるあなたがたには尊いものであるが、不信仰な人々には「家造りらの捨てた石で、隅のかしら石となったもの」、

2:8 また「つまずきの石、妨げの岩」である。しかし、彼らがつまずくのは、御言に従わないからであって、彼らは、実は、そうなるように定められていたのである。

2:9 しかし、あなたがたは、選ばれた種族、祭司の国、聖なる国民、神につける民である。それによって、暗やみから驚くべきみ光に招き入れて下さったかたのみわざを、あなたがたが語り伝えるためである。

2:10 あなたがたは、以前は神の民でなかったが、いまは神の民であり、以前は、あわれみを受けたことのない者であったが、いまは、あわれみを受けた者となっている。

24:8 そこで女たちはその言葉を思い出し、

24:9 墓から帰って、これらいっさいのことを、十一弟子や、その他みんなの人に報告した。

24:10 この女たちというのは、マグダラのマリヤ、ヨハンナ、およびヤコブの母マリヤで

あった。彼女たちと一緒にいたほかの女たちも、このことを使徒たちに話した。

24:11 ところが、使徒たちには、それが愚かな話のように思われて、それを信じなかった。

弟子たちもまた、まだまだ頑固で自分のことばかりしか考えられない人たちでした。

マタイ 16:22 すると、ペテロはイエスをわきへ引き寄せて、いさめはじめ、「主よ、とんでもないことです。そんなことがあるはずはございません」と言った。

16:23 イエスは振り向いて、ペテロに言われた、「サタンよ、引きさがれ。わたしの邪魔をする者だ。あなたは神のことを思わないで、人のことを思っている」。

素晴らしい主の勝利と希望のストーリーがどんどんと前進しているのに、恐怖と悩みと失望に閉じ込められた人は勝利と信じることができずに、愚かな話、空虚なたわごとのように聞かれるのです。

私たちにとってイエス様とは、その誕生と奇跡と身代わりの死による贖いと復活は空虚な、空っぽの、愚かなたわごとでしょうか。イエス様は死んだっきりのお方でしょうか。それとも、神様は今も生きて私たちをこの上なく守り、万事を益として導いてくださるお方でしょうか。

イースター。墓の中からよみがえられた主は、今も行ける主は、喪服を着て悲しむ私たちの死んだ信仰を生き返らせてくださるのです。

◇祈禱；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。主のご復活によって現わされましたあらゆる力強い、私たちのための御救いのゆえに、神様に感謝をおささげいたします。私たちの主はいつも生きて私たちを助けてくださいます。どうぞ主を力強く信じ抜くことができますように。どうぞあらゆる苦しめる方々を神様の救いと平安の中にお導き下さい。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン